

資料7 重大な人的被害を生じた運転事故（昭和63年以降）

| 発生日 | 事業者名 | 場 所 | 事故種類 | 死亡者数 | 負傷者数 | 概 冴 |
|---------------|-----------|-----------------------|--------------|------|------|--|
| S. 63. 12. 5 | JR 東日本 | 中央線 東中野駅構内 | 列車衝突 | 2 | 116 | 列車が停止信号を冒進し、駅に停車中の先行列車と衝突した。 |
| H. 1. 1. 29 | 秩父鉄道 | 秩父線 西羽生駅～新郷駅間 | 列車脱線 (踏切) | 6 | | 踏切道に進入してきた自動車に、列車が衝突して脱線した。 |
| H. 1. 4. 13 | JR 東海 | 飯田線 北殿駅構内 | 列車衝突 | | 146 | 出発信号機の進行信号を場内信号機のものであると誤認し、場内信号機の停止信号を冒進して駅停車中の列車と衝突した。 |
| H. 2. 1. 7 | JR 北海道 | 室蘭線 白老駅～社台駅間 | 踏切障害 | 5 | | 踏切道に進入してきた自動車に、列車が衝突した。 |
| H. 3. 5. 14 | 信楽高原鐵道 | 信楽線 小野谷信号場～紫香楽宮跡駅間 | 列車衝突 | 42 | 628 | 設備不備で出発信号機が停止信号となっている時に、代用閉そく方式を施行せずに出発した列車が、対向列車と衝突した。 |
| H. 3. 6. 25 | JR 西日本 | 福知山線 丹後竹田駅～福知山駅間 | 列車脱線 (踏切) | | 333 | 踏切道の高さ制限用固定ビームに、荷台のパワーショベルが接触して踏切道内に停止していたトラックに、列車が衝突した。 |
| H. 3. 10. 11 | 阪急電鉄 | 京都線 正雀駅～南茨木駅間 | 列車脱線 (踏切) | 5 | | 踏切道に進入してきた自動車に、列車が衝突して脱線した。 |
| H. 4. 6. 2 | 関東鉄道 | 常総線 取手駅構内 | 列車脱線 | 1 | 251 | 車両故障時の応急措置を誤って制動不良となった列車が、線路終端部の壁に衝突した。 |
| H. 4. 9. 14 | JR 東日本 | 成田線 久住駅～滑河駅間 | 列車脱線 (踏切) | 1 | 90 | 踏切道に進入してきた自動車に、列車が衝突して脱線した。 |
| H. 5. 10. 5 | 大阪市交通局 | 南港ポートタウン線 住之江公園駅構内 | 人身障害 | | 215 | 自動運転の列車が、終端駅の所定停止位置を過走して車止めに衝突した。 |
| H. 11. 2. 21 | JR 東日本 | 山手線 大崎駅～恵比寿駅間 | 人身障害 | 5 | | 信号関係工事の作業員が、臨時列車にはねられて死亡した。 |
| H. 12. 3. 8 | 帝都高速度交通営団 | 日比谷線 中目黒駅構内 | 列車衝突 | 5 | 64 | 駅進入の際、最後部車両が脱線し、対向列車と衝突した。 |
| H. 14. 2. 22 | JR 九州 | 鹿児島線 海老津駅～教育大前駅間 | 列車衝突 | | 134 | 無閉そく運転中に、先行列車に対する進行中継信号現示を自列車に対するものと勘違いして加速し、先行列車と衝突した。 |
| H. 17. 4. 25 | JR 西日本 | 福知山線 塚口駅～尼崎駅間 | 列車脱線 | 107 | 562 | 大幅な速度超過で曲線に進入した列車が脱線し、沿線のマンションに激突した。 |
| H. 17. 12. 25 | JR 東日本 | 羽越線 北余目駅～砂越駅間 | 列車脱線 | 5 | 33 | 突風により脱線し、一部車両が盛土下に横転した。 |
| H. 19. 3. 1 | JR 北海道 | 石北線 美幌駅～緋牛内駅間 | 列車脱線 (踏切) | | 51 | 踏切内に進入した大型トレーラーに、列車が衝突して脱線した。 |
| H. 23. 5. 27 | JR 北海道 | 石勝線 清風山信号場構内 | 列車脱線 | | 79 | 列車の部品がレールと接触して脱線し、トンネル内で燃料タンクから漏れた軽油に引火し火災が発生した。 |
| H. 24. 9. 24 | 京浜急行電鉄 | 本線 追浜駅～京急田浦駅間 | 列車脱線 | | 56 | 線路内に流入した土砂に乗り上げ、脱線した。 |
| H. 26. 2. 15 | 東京急行電鉄 | 東横線 元住吉駅構内 | 列車衝突 | | 72 | ホームを過走し停車していた先行列車に後続列車が衝突、その衝撃で脱線した。 |

※1. 平成17年度以前は死者5人以上又は死傷者100人以上の運転事故及びそれに準ずる運転事故を、平成18年度以降は死者5人以上又は死傷者50人以上の運転事故を掲載した。

※2. 事故種類に「(踏切)」と付記されている列車事故は、踏切事故でもある。